

枕崎産かつお節製法伝来300年記念式典

より上質なかつお節で 更なる飛躍を誓う



枕崎水産加工組合は9月13日、地場センターで300年を祝う記念式典を開催しました。伊藤祐一郎知事や日本鯉節協会の山中政男会長を初め、業界関係者など全国から230人が出席し、300年の節目を盛大に祝いました。

くしくも今年は、原油高や海外の魚食ブームによりカツオ価格が高値で推移し、業界全体が厳しい状況。西村協組合長はあいさつの中で、「この300年の間には何回も今年のような状況があったと推測される。先人たちが知恵を出し合って乗り越えて我々の世代に継承されている」と語り、「今後の私たちの使命は、枕崎で生産される鯉節が『安心・安全・健全』な食品であることを念頭に、まじめな鯉節製造をしていくこと」とし、このことを伝統として引き継ぎ、今後の更なる飛躍へ繋げていきたいと誓いました。



第62回さつま鯉節 産地入札即売会

枕崎水産加工組合入札会場で9月14日開催され、市内の37社が出品し、全国から集まった56社の仲買人らが次々と値を付けていきました。

最高級の仕上げ節のうち本節はキロ当たり平均1,826円対前年比277円高、亀節は1,714円対288円高。その他を合わせた売上総額は3億3,871万円同5,751万円増。結果について同組合は、「仕上げ節は品質で価格差が付いたが、荒節を含め全体的によい値が付いている」と評しました。



市内全小学校児童に かつお節を贈呈

枕崎水産加工組合は、製法伝来300年を記念して、市内全小学校児童にかつお節(若節)を贈呈しました。男子には雄節を、女子には雌節を贈呈。

枕崎小学校での贈呈式で、西村組合長は「かつお節を食べるとすく元気が出ます。運動会前に食べて、みんなが一着を取れるように持ってきました」とあいさつ。児童を代表して6年の上釜杏奈さんが、「長い歴史のあるかつお節に誇りを感じる。『かつお節のように』を合言葉に、元気に頑張りたい」と感謝の言葉を述べました。

地球温暖化から私たちの生活を守るため

『マイバッグ生活』 始めませんか？



レジ袋は、全国で年間305億枚使われています。このために約60万キロリットルの石油が使われ、レジ袋1枚が燃やされると9グラムの二酸化炭素が出ます。地球温暖化が深刻化する中、一人ひとりがマイバッグを持参するなど意識して、レジ袋削減に取り組めば、地球温暖化の防止につながります。



▲市内スーパーで、マイバッグを持って買い物をしていく浜崎フクエさん(緑町)。

「いつも自分の袋を持って買い物に行きます。環境のことを考えるのは大事なことです。家では生ごみで肥料を作り、花や野菜にあげています」

■皆さんもご協力を 「レジ袋減らし隊」

7月1日から、全国各地で循環型社会の形成と温暖化防止活動推進のために、「レジ袋減らし隊」運動が展開されています。この運動は、買物時のマイバッグ持参を呼びかけ、12月末日までに全国でレジ袋3,000万枚の削減を目指すものです。

枕崎でも生活学校生が中心となり、市内9店舗のスーパーや商店に協力をお願いし、実施しています。

運動の実施方法は、協力店に置いてある「レジ袋使わないからはんこださいカード」をもらって、買物時にマイバッグを持参した時にレジ等でカードにはんこを押してもらえます。

最終的に回収したカードのはんこの数を集計して運動の成果を確認します。カードは、



レジ袋いらないから
ハンコを押さよう

協力店で回収しておりますので、はんこがいっぱいになったら提出して新しいカードをもらってください。市外の協力店でもカードを用意し、回収も行っていきますので、そこで提出されてもかまいません。レジ等で協力店かどうか確認してください。

■この機会に実践してみよう 10月はマイ・バッグ・キ ャンペーンの推進月間

身近なところから、ごみの減量化・リサイクルを進めるため「マイ・バッグ・キャンペーン」を10月1日から31日までの1か月間実施します。買物の際には、次のことを心がけましょう。

- 買い物袋などを持参し、レジ袋を使わないようにする。
- レジ袋をもらった後、繰り返し使う。
- リサイクル商品や簡易包装の商品を買うようにする。
- 不要な包装や過剰包装は、断るようです。

■ いつでも住みよい地球、住みよい枕崎を残すために、できることから始めましょう。